

# 欧州専門調査報告書

長崎市議会議員 吉原 日出雄

## 訪問の目的

20世紀、一大産炭地として世界経済の成長を支えたウェールズは、エネルギーの変革（石炭から石油へ）によって一時期衰退したが、カーディフ、エバベール、スワンジーなどの都市では、その地域の特性を生かした再開発を行い、都市の活気を取りもどすことに成功している。

また、ロンドンでは、オリンピックの関連施設用地について、施設の建設前からオリンピック終了後を念頭に置いた活用が図られている。

地方創生の先例とも言えるこれらの都市の視察・調査を通して、地方創生の計画策定や施策のあり方、手法に関する認識と理解を深めるため、公職研の平成27年度職員研修・海外派遣（団員：13名）に参加しましたので、以下、その概要についてご報告いたします。

**訪問期間** 平成27年11月1日(日)～平成27年11月7日(土)（7日間）

**訪問都市** ロンドン（イングランド）  
カーディフ（ウェールズ）  
エバベール（ウェールズ）  
スワンジー（ウェールズ）

## 日 程

月 日 (曜)	発着地/滞在地名	視 察 地	摘 要
11月 1日(日)	東京(成田) 発 ソウル 着 ソウル 発 ----- ロンドン 着		【所要時間：2時間10分】  【所要時間：11時間20分】
2日(月)	ロンドン	ロンドン市内	○ロンドン市内及び大ロンドン都市圏を形成する近郊都市の再開発事情を視察 ○CLT住宅視察
3日(火)	ロンドン 発 カーディフ 着	カーディフ市役所・ 港湾局	○「カーディフベイ再開発」に関するレクチャー エネルギーの変革によって衰退したカーディフベイをPFIの活用により、商業、観光、娯楽施設を誘致した手法についてヒアリング

月 日 (曜)	発着地／滞在地名	視 察 地	摘 要
4 日 (水)	カーディフ	エバベール	○エコタウン「The Works」視察 ○カーディフ商業施設視察
5 日 (木)	カーディフ 発 スワンジー 着  スワンジー 発 カーディフ 着	スワンジー	○スワンジーウォーターフロント開発 地域視察
6 日 (金)	カーディフ 発  ロンドン 発		
7 日 (土)	ソウル 着 ソウル 発 成田 着		【所要時間：10 時間 50 分】  【所要時間：2 時間 10 分】

## 1 主な視察先

### (1) 英国

- ① ロンドン (イングランド)
- ② カーディフ (ウェールズ)
- ③ エバベール (ウェールズ)
- ④ スワンジー (ウェールズ)

## 2 視察内容

- (1) ロンドンオリンピックの関連施設の跡地活用
- (2) カーディフベイの再開発
- (3) エバベールにおける再開発 (エコタウン「The Works」)
- (4) スワンジーウォーターフロント再開発

## 3 視察先の概要

【グレート・ブリテン及び北部アイルランド連合王国 (今回視察：イングランド及びウェールズ)】

- (1) 面積 243,000 k m<sup>2</sup> (日本の 0.7 倍)
- (2) 人口 約 6,410 万人
- (3) 首都 ロンドン
- (4) 公用語 英語
- (5) 主要宗教 イギリス国教会

【ロンドン】 (11月2日 (月) )

ニューハム・ロンドン特別区は、イングランドのロンドン東部にあるロンドン特別区のひとつであり、シティ・オブ・ロンドンから東に 8 k m のところ、テムズ川の北岸に位置する。ニューハムは特定

の民族が突出しておらず、イングランド内で最も少数民族人口の割合が高い地域となっている。自治主体はニューハム・ロンドン・バラ・カウンシルで2012年のロンドンオリンピックでホストとなったロンドン特別区6つのうちのひとつである。

今回の視察では、ニューハム区の担当者から、オリンピックに関する開発状況やその後の再開発について説明を受け、その後、オリンピックパークに隣接する高層住宅「オリンピックパークビューイングギャラリー（Olympic Park Viewing Gallery）」や、オリンピック・スタジアム、オリンピックパーク周辺の開発を視察した。

ニューハム区は、ロンドンオリンピックで最も多くの競技が行われた地区であり、また、メイン会場と選手村があった地区でもある。

オリンピック開催に向けての準備を行うに当たっては、「オリンピックを計画どおりに成功させること」と「オリンピック終了後の跡地をどうするか」ということが重要なテーマであった。



《ニューハム区の担当者と記念撮影》

「オリンピック終了後の跡地をどうするか」については、過去のオリンピックにおいて、競技関連施設や施設用地を大会終了後にどうするかについて、あらかじめ十分な検討が行われずに建設されていたため、大会後に無用の長物となったケースもあるという教訓を踏まえ、ロンドンでは大会終了後を念頭に置いて、「再生 (regeneration)」、「後に残す (legacy)」、「持続可能性 (sustainability)」という観点に基づき計画が策定された。

選手村はオリンピック終了後に一般の住宅として利用することを前提として建設され、また、電気通信網や地下鉄・高速鉄道などのインフラやショッピングモールなどの施設についてもあらかじめ大会後も持続的に使用できるよう計画され、整備が進められた。

オリンピック・スタジアムは、オリンピック、パラリンピック開催のため80,000人を収容する競技場として建設された。オリンピック閉会后50,000人収容のスタジアムに改修されたが、これは当初から計画されていたものである。同スタジアムは、本年9月から開催されたラグビーワールドカップにおいて開催会場のひとつとなり、大会全48試合のうち5試合が行われた。



《オリンピック・スタジアム》

ニューハム区の再開発は、オリンピックの計画段階からオリンピック終了後のまちづくりを周到に見据えて行われていたことに感銘した。

また、ロンドンでは、CLT（クロス・ラミネーテッド・ティンバー）建築物を視察した。CLT は、木材を縦と横に交互に重ねた分厚いパネルで、ヨーロッパ各国で様々な建築物に利用されており、近年、各国で急速に利用が高まっている。



《オリンピックスタジアムは 2015 年ラグビーワールドカップの開催会場のひとつとなった。》



《ロンドンの CLT 建築物》

#### 【カーディフ】（11月3日（火））

カーディフ・ベイは 19 世紀の産業革命以降、1940 年をピークに世界で最大の石炭積み出し港として発展していたが、第 2 次世界大戦後、エネルギーの変革（石炭から石油へ移行）により、その機能は失われ、都市の衰退期を迎えることとなった。

1987 年にカーディフ港湾開発公社（Cardiff Bay Development Corporation）が設立され、民間から資金を調達し、1,092 平米に上る地域の再開発に着手した。

1999 年、1.1 キロメートルにわたる堰（Barrage）を建設。タフ（Taff）川とエリー（Ely）川から

湾に流入する水を堰き止め、川と海を分断し、カーディフ湾 200 万平米を淡水化した。この堰の建設により、干満の差が大きかった湾の水位を一定に保つことができるようになった。

また、5,700 戸の住宅建設を行うなど、一連の開発を通し 18 億ポンドの民間資金の調達を達成し、累積で 17,000 名の新規雇用を創出した。

カーディフの再開発を計画するに当たり、最も重要視されたのは「国際的なイベントの誘致」であり、そのために芸術、娯楽、スポーツ等のイベントが開催できる様々な施設を整備した。

ウェールズミレニアムセンター (Wales Millennium Centre) は、コンサートやオペラが行われるホールで 1 億 2,400 万ポンドが投資され、2004 年 (第 1 期)・2009 年 (第 2 期) にオープンした。1,987 人収容のメインホール、350 人・250 人収容のホールがある。

ウェールズミレニアムスタジアム (Wales Millennium Stadium) は、1999 年にオープンした英国初の全天候型のスタジアムであり、1999 年、2015 年のラグビーワールドカップや 2012 年のロンドンオリンピックのフットボールの会場として使用されるなど、世界的にも有名なスタジアムで年間 130 万人が来訪している。スタジアムの建設にかかる 1 億ポンド以上の開発費用を捻出するため、宝くじ (National Lottery) を発行し、売上金が充てられた。

インターナショナル・スポーツ・ビレッジは、2 億 7,000 万ポンドの資金を投入して 2009 年に完成し、2012 年のロンドンオリンピックのトレーニング地として活用された。ウェールズ唯一のオリンピック対応のスイミングプール、英国初のオリンピック対応型カヌー専用スラロームコースが整備されている。

一方、再開発の主要プロジェクトのひとつであるセントデイビッド 2 ショッピングセンター (St David's 2 Shopping Centre) には、6 億 7,500 万ポンドが投資され、2009 年に完成した。13 万平米の広さを誇り、同商業施設による地元への経済効果は年間 2 億 5 千万ポンドと試算されている。

現在、カーディフには 35 万人が住み、人口 140 万人の都市圏を周辺に有し、通勤者など毎日 8 万人の交流人口がある。

カーディフは、地理的には、ロンドンに最も近い首都であり、車で 1 時間の圏内に 600 万人、2 時間圏内には 1,500 万人の人が住んでいる。また、ヒースロー空港まで 1 時間 45 分のところにあり、空港からはパリ、アムステルダム、チューリッヒなど各国の大都市への直行便がある。

カーディフの産業の特徴としては、創造的、文化的な仕事が多く集まっており、人口の 40 パーセントが第 3 次産業に従事していることが挙げられる。芸術や娯楽などクリエイティブな分野の従業者の割合が英国の中核都市の中でも 2 番目に高く、50,000 人以上が IT とビジネスサポートサービスの業務に従事している。

教育の分野でもカーディフは英国の中心となっており、カーディフの周辺には 7 万人を超える学生がおり、そのうち 3 万 6,000 人はカーディフの中心部で学んでいる。

このような芸術・娯楽・スポーツ産業の発展や、英国における教育の中心地となったことにより、カーディフは、英国の中で最も急速に人口が増加している都市で、2008 年に 33 万人であった人口が 2033 年には 13 万 6,000 人増の 46 万 8,000 人 (41.6 パーセント増) になると予測されている。

再生したカーディフは、様々な旅行ガイドブックで称賛され、「世界の訪れたい場所」ベスト 10 のひとつにも選ばれており、年間で 1,800 万人を超える観光客が訪れ、およそ 10 億ポンドの消費支出を生み出している。

EU の都市評価においても、文化的インフラ、スポーツ施設、図書館の状況などにおいて高い評価を得ており、「若者にとってのベストシティ」とも評された。

観光産業では、視察したカーディフ城も観光誘致の原動力となっていた。

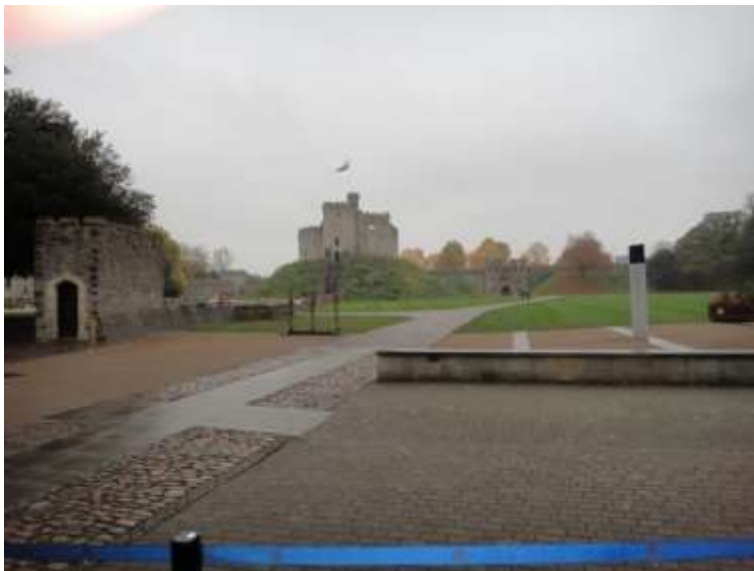
カーディフは再開発において、娯楽、文化、スポーツへの投資を通じて活気に満ちた都市に生まれ変わったが、今後さらに競争力のあるビジネス街として発展していくため、「ビジネスインフラへの投資」、「通信ネットワークへの投資」に重点を置いていくこととしている。

今後、交通インフラの整備では、2018年には、新たな車両の導入などによりカーディフ・ロンドン間を結ぶ鉄道の所要時間が100分に短縮され、ヒースロー空港まで直結する予定である。

また、すでに英国の都市の中でもカーディフは超高速ブロードバンドの普及率が最も高いが、更に今後1,000万ポンドをかけて市中心部において無料Wi-Fiの設備を整備することとしている。

これらの取組みは、世界の住みやすい都市のトップ100になるという目標を実現するために必要な要素としてとらえられている。

芸術、娯楽、スポーツなどの産業を発達させ、更にビジネス街としての発展を図っているカーディフの、時代の流れを敏感にとらえ、地域の特性を生かしながら行っているまちづくりは参考になった。



《カーディフ城》

【エバベール】(11月4日(水))

エバベールでは、「The Works」というエコタウンを視察した。「The Works」は、英国でも最大級のエコタウンのひとつである。

まず、「The Works」のビジターセンターを訪問し、開発プロジェクトの概要について説明を受け、その後開発サイトを視察した。

かつてエバベールにあった91ヘクタールのブリキ鋼板工場は1790年から2002年まで操業していたが、工場の閉鎖に伴い街は衰退していた。エバ



《エバベール》

ベールは、再開発により 720 戸の住宅、病院、小・中・大学などの学校、劇場などのカルチャーセンター、プール等を建設した。

また、エバベールには英国初のゼロカーボンハウスがあり、持続可能な建築デザインや太陽光発電等、低炭素化技術の実証地となっている。

これらの再開発により建設されたものすべてが、環境に配慮され、周辺の自然と絶妙に調和している。

これらの再開発は、ウェールズ政府・ブラエナウグエント・カウンシルの共同プロジェクトで、EU の補助金制度「オブジェクティブ・ワン」による 3 億 5,000 万ポンドの開発費が投入され、プロジェクトは現在進行中である。

住宅地においては、各住宅が簡素な中にも利便性を高めた機能を有しており、学ぶところが多く、地球にやさしい街づくりを行っていることに感動した。

#### 【スワンジー】(11月5日(木))

ウェールズ第二の都市スワンジーは、人口 22 万人、首都カーディフから車で東に約 40 分のところにある。銅精錬や金属加工が盛んな港湾都市で、高速鉄道や高速道路「M4」で英国主要都市と結ばれている。

スワンジーでは、「SA1」という再開発プロジェクトを 2000 年から開始している。

再開発は、主にシティーセンター（既存市街地）に隣接する遊休の工業用地を利用して行われた。

40 万 4,000 平米のベイエリアの遊休地再開発を 2001 年に開始し、2,000 戸以上の住宅、7 万平米のオフィスブロック、9,000 平米の商業施設を開発したが、開発は進行中で、4 億ポンドに上る民間からの投資、4,000 人規模の新規雇用創出を目標としたプロジェクトである。

これらの資金は政府の補助金、EU からの補助金、政府保有地の売却による収益などにより賄われている。

再開発では、洪水対策としての堤防を建設する際に、地元自治体の要望により砂浜や散歩コースを合わせて整備するなど地元自治体との連携を図りながら進められている。

また、再開発により整備された住宅の入居については、公共的な業務に携わる消防士、介護士、看護師などを対象に優先的に確保された。(全体の約 10%)



《The Works のプール》



《スワンジー》

SA1 の目標に対する現在の達成状況としては、住宅 2,000 戸の目標に対し 850 戸、オフィス面積 75 万 3,000 フィートスクエアの目標に対し 31 万 8,000 フィートスクエア、民間投資 4 億ポンドの目標に対し 1 億 5,000 万ポンド、雇用創出 4,000 の目標に対し 2,800 などとなっている。

スワンジーの防波堤工事を砂浜や散歩コースにする発想や、住宅の 10%を消防士、介護士、看護師などに確保してまちづくりを行っていることに感銘した。